

着地型観光商品づくりのための素材集 <正誤表>

本書に下記のとおり、誤りがございました。お詫びして訂正致します。尚、ホームページのデータは正しく修正されています。(2021年4月現在)

ページ	行	誤	正
14	左上写真	明治13年木造の高架を走る義経号 <小樽市総合博物館蔵>	<北海道大学附属図書館北方資料室蔵>
14	右上写真	明治13年張碓で馬車道づくりの指導 に当たるクロフォード <小樽市総合博物館蔵>	<北海道大学附属図書館北方資料室蔵>
14	左段9行目 14行目	幌内線(幌内鉄道)	官営幌内鉄道
14	左段9行目	客車連結によって	客車として
14	左段10行目	貨車連結による	貨車として
14	左段19行目	手宮・開運町・銭函	手宮・開運町・銭函・軽川(→手稲)・ 琴似・札幌
14	右段7行目	北炭経営時	北海道炭礦鉄道経営時
14	右段25行目	北海道鉄道は主に人を運ぶもの(客車)	北海道鉄道は船舶の代替として人も 物も運ぶもの
14	右段26行目	函館から小樽～札幌へ敷設	函館と今の南小樽を結ぶ路線が敷設
14	右段30行目	石炭を運ぶ幌内線と人を運ぶ函館本線 の2本の鉄道が敷かれ	北海道鉄道と北海道炭礦鉄道幌内線 が敷かれ
14	右段34行目	両線は南小樽で合流して札幌へ伸び ていました。したがって南小樽～札幌 は同じ敷地で、幌内線と函館本線が 入っていました	北海道鉄道は南小樽まで、そこから 札幌までは北炭幌内線となっています。
14	右段39行目	開拓使(国営)	(国営) 削除
17	左段23行目	明治28(1896)年	明治26(1893)年